

生活支援体制づくり協議体会議（市域レベル）開催報告書	
1 開催日時	令和 7 年 12 月 5 日（金） 10 時 00 分 ～ 11 時 30 分
2 開催場所	浜松市福祉交流センター3階特別会議室
3 参加者	委員8名、高齢者福祉課5名、事務局2名 計15名
4 協議の内容	1. 開会 2. あいさつ 3. 振り返り 4. 協議事項 ①地区社会福祉協議会における家事支援にともなう外出支援のパッケージ化について 配布資料に基づき第1層 SC より説明。「家事支援に伴う外出支援」の事業設立までのプロセスを重視し、他の地区が活動を検討・開始する際の参考となる手引きをイメージしたパッケージ化を検討したい旨を確認した。 【意見・質問等】 意見：地域によって近隣に資源（病院、薬局、スーパー等）が充実しており、外出支援の必要性には地域差があると思われる。自分の地区は充実していると思う。利用料や登録員の数の差についても聞きたい。 意見：ニーズ調査を実施した地区は、調査結果の全体像に合わせた建設的な設計ができているのではないかと。ニーズ調査をしていない地区はどう全体像をつかんで制度を組み立てたのかが気になる。 意見：一番新しく立ち上がった地区の検討から立ち上げ、運用に至るまでのステップをモデルケースとするのが良いのではないかと。一部の声を拾いながらどう広げていくのか、それぞれの手続きのウエイトやどのタイミングにどんなことをしておくかといった、ある程度のステップの踏み方が見えると立ち上げの伴走がしやすいのではないかと。立ち上げた後に地域の中で定着・継続させていくか、ニーズがなかった時にどう終結していくかという部分も想定しながら、サポートしていく仕組みの検討が必要と思われる。 意見：令和3年度までは、外出支援設立までのプロセスが他になく、地域も市社協も試行錯誤の時期だったのではないかと。令和6年度以降に立ち上がった地域は、その前に立ち上がった地区のプロセスや蓄積を参考に立ち上がることができたと思われる。後方支援体制整備事業の活用も先行事例の勉強には役立ったといえるのではないかと。保険の違いについては、実施する地域の判断の中で差があると思われるが、詳しく状況について聞きたい。 意見：支援中の事故に対する保険については、外出支援だけでなく家事支援を検討

している地域でも話題になる。事故が起きた場合の不安を解消するのがパッケージ化する上で大切ではないか。ニーズ調査については、全ての地区がやらなくてはならないわけではないと思う。他の委員の意見にもあった通り、自分の地域の状況から「やらなくても大丈夫」ということも選択肢の一つ。あえて「自分の地域は外出支援がなくてもやっていける」ということを認識していくことも大切に感じた。

意見：誰が担ってどういう形で安全性が確保できるかが大切。担い手の負担が民生委員などに偏らないよう、関係団体以外の地域住民へのボランティアの意識の醸成と掘り起こしが必要である。

第1層 SC：ニーズ調査なしで始めた地区は、家事支援等を通じて出会った「目の前の通院や買い物に困っている人」という個別ケースから、活動が始まっている。現在、外出支援について検討している地域の中には、アンケート調査を行い、通院や買い物に困難に感じている人が現状少なくとも、「困っている人が一人でもいるなら支援したい」と考えられている地域もある。

これから立ち上げたいと考えている団体やその支援者目線で、設立までに必要と思われるポイント、パッケージ化していくのに必要な項目についてもご意見いただきたい。

意見：生活支援の設立だけでなく、地域にある訪問診療や宅配サービスなどの近場で代替となる資源の把握も重要である。その利用を促していくことも大切ではないか。

実際に地域に必要なこと・その部門があるかの調査は必要に感じる。包括圏域で病院や薬局、買い物できるところがどこにあるのかの把握等はしていると思われるが、それぞれでやっていて他の地区からは見えない部分になっている。

意見：地域の資源は包括である程度把握していると思われる。ただ、インフォーマルな資源がどの程度内容が充実しているかまでの精査はできていない。示していくのが難しい。

行政書類等の伴走的支援をどこがしてくれるのかが示されるとよい。

意見：外出支援を設立された地区については、移動についての課題認識がスタッフにあり、課題認識から入っていく中で市社協等から様々な情報を提供されているように思う。助け合いだけで全て済ませようとするとやりきれないところがどうしても出てきてしまう。活用できるサービスは活用し、地域がやれる範囲でやっていくようなさじ加減やメンバー間の温度感を意識しつつ、地域の実情・ニーズとの兼ね合いを踏まえて進めていくことがコーディネートする人に求められていく。手引きにはそんなことも盛り込んでいてもいいのではないか。

意見：設立のための支援や様式集は必要に思う。どこまで家事支援の中で抱え込むのか、抱え込みすぎてしまうことでボランティアも利用者も不利益を招かないように、どの段階で公的なサービスにつないでいくのか。次への展開の仕方を主体的に取り組んでいる方々には意識してもらう必要がある。そのためにも、支援者は取り組んでいる方々が「そろそろサービス移行したほうがいいのではないか」という発想が持てるようなアプローチをしていくことも必要。

意見：読んだ人が柔軟にできるような手引きがいいと思う。設立までのタイムライン、会則等の書類の様式集、設立から運用までに関わる人達の体制図、実績報告やお金の流れ等のフロー図などが入ると活用しやすいと思われる。また、モデル地区の議事録やメモ等もあるとなおよい。ある程度わかると、実際に検討していく地区でイメージ

ができるのではないか。

意見：城北地区の正式にスタートはいつか。

回答：令和３年９月である。

意見：外出支援と逆に、買い物の配達や訪問治療等、来てくれる資源があるということも知らしめていくことは必要でないか。

意見：車両保険つけていない地区は、運転手の保険を使ってしまうと次更新した時に保険料がたかくなってしまう。そのため、その補償をされている地区もある。専門職につなぐということを地域の方が本当にどこまでやれるのか。市民にとって重要なサービスとして展開していくためには、専門職や専門機関がこの家事支援に伴う外出支援を適切に利用するような周知も必要。持続可能なサービス展開を専門職と一緒に作りあげ、カバーしていけるかも重要。

意見：個々の様々な状況を最大限カバーしなくてはならないという形を考えると踏み出しにくい。大変な人をみたら、なんとかしてあげたいとも思うが、人の善意だけに頼っていくのではなく、ほかのものとどう組み合わせしていくか。行政としてはどう考えるか。

回答：移動支援は公共交通機関が基本。バスの路線も本数も減少していて、維持させるために市として補助を出している現状がある。行政のスタンスとして、住民からニーズが出てきた動きを助成していく立場であり、無理やりに地元住民に何とかしてほしいというスタンスではない。

意見：高齢者向けに運転の講習会をする際、専門家の方から、浜松は車の文化の地域であり、バスの乗り方がわからず、活用できない人もいるという話もきいた。路線があれば、本数があれば人がたくさん乗るとは限らず、文化的側面も考慮する必要がある。

意見：浜松市内は都市も中山間地もある。都市の中でも路線のあるエリア・ないエリア等で事情が異なる。また、その中でも買い物できる場所のあるエリア・ないエリアがあり、一概には議論が難しい。今回は交通のあり方よりも、その中の支え合いの部分についての検討になる。市内の公共交通のあり方についての議論を深めることは難しいと思う。

5. 連絡事項

①安全運転講習について

②生活支援ボランティア養成講座について

5 今後の見通し・ 必要な対応

この協議体での議論は、交通政策全体ではなく、生活支援（付添支援）という目的で、支え合いのできる部分に焦点を当てている。地域を支える仕組みとして、外出支援のニーズがあがった場合に外出支援の立ち上がりを適切に応援できる体制づくりを進めていきたい。今回いただいた意見を参考に、パッケージ化についても今後進めていく。

